

第7代WTO事務局長選考の関係者

表1 事務局長候補者

名前	出身国	地域	役職	届け出日	主な経歴、主張など
ヘスス・セアデ	メキシコ	中南米	外務次官	6月8日	首席交渉官としてUSMCA交渉を主導。IMF勤務、WTO事務局次長も経験。紛争処理システムの立て直しやルール交渉の加速に意欲。
ンゴジ・オコンジョ・イウエアラ*	ナイジェリア	アフリカ	Gaviワクチンアライアンス理事長など、元財務相	6月9日	世界銀行で25年以上勤務。「WTOに新鮮な観点を持ち込める」との立場から、WTO外での自身の経験をアピール。
ハミド・マムドゥ	エジプト	アフリカ	弁護士・大学教授、元WTO職員	6月9日	WTOではサービス貿易委員長などを経験。WTOは「共通の目的を失いつつある」とし、「未曾有の危機に際し新しいタイプのリーダーシップが必要」と主張。
トウドル・ウリアノフスキ	モルドバ	欧州	WTO大使、元外相	6月16日	駐ジュネーブ大使含め、外交実務の経験が長い。
ユ・ミョンヒ*	韓国	アジア	通商交渉本部長	6月24日	女性初の韓国の通商交渉本部長。通商専門官としての実務経験が長い。
アミナ・モハメド*	ケニア	アフリカ	スポーツ・文化・遺産長官、元外務長官	7月7日	WTOでは第10回閣僚会議(2015年)の議長やケニア大使、一般理事会議長を経験。自身に「この重要な時期にWTOを率いる能力がある」とコメント。
モハメッド・アル・トゥワイリ	サウジアラビア	中東	王立裁判所顧問、元経済計画相	7月8日	政府の要職のほか、民間金融機関での勤務経験が長い。
リアム・フォックス	英国	欧州	保守党議員、元国際貿易相	7月8日	唯一の先進国出身者。自身が選出されれば、WTOの機能強化と改革に注力することを表明。

表2 トロイカ体制を構成するファシリテーター

名前	出身国	地域	議長を務める組織
デビッド・ウォーカー	ニュージーランド	大洋州	一般理事会
ダシオ・カステージョ	ホンジュラス	中南米	紛争解決機関
ハラルド・アスペルンド	アイスランド	欧州	貿易政策検討機関

(注)*は女性。

(出所)WTOウェブサイトおよび各種報道を基に作成